

<b>Title</b>	心理的虐待の定義に関する検討
<b>Author(s)</b>	池, 弘子
<b>Citation</b>	聖学院大学論叢,19(1) : 33-46
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=48">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=48</a>
<b>Rights</b>	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

# 心理的虐待の定義に関する検討

池 弘 子

## Consideration of the Definition of Child Psychological Abuse

Hiroko IKE

Research has established that psychological abuse has the longest-lasting and strongest negative effect on children of any type of child abuse. There are many researchers who believe that psychological abuse is a core component of all types of child abuse. But psychological abuse has created so many difficulties and so much confusion for researchers and practitioners, and these difficulties and confusion have led to delays in protective intervention. It is pointed out that one of reasons for these difficulties and confusion lies in the absence of a unified and precise definition.

This study reviews the wide range of definitions of psychological abuse and proposes an appropriate direction for defining the term. (a) Psychological abuse should be defined solely by parental behaviour having potential for harm to a child not including observable child harm. (b) Psychological abuse should be limited to nonphysical parental behaviour and nonphysical child outcomes. (c) Parental intent to harm the child is not necessary for the definition. (d) Psychological abuse should include not only repeated patterns of parental behaviour but also singular extreme incident. In addition I propose the following five subtypes of psychological abuse: spurning, terrorizing, isolating, encouraging inappropriate behavior, and denying emotional responsiveness.

---

**Key words:** 児童虐待, 心理的虐待, 情緒的虐待, 定義

## I. はじめに

欧米において児童虐待が最初に注目されたのは身体的虐待であった。Kempeら (Kempe, Silverman, Steele, Droegemueller, & Silver, 1962) が被殴打児症候群と名づけた身体的虐待を受けた子どもについて報告したことが契機となった。次いで性的虐待が問題になり, その後やっと心理的

## 心理的虐待の定義に関する検討

虐待にも関心が向けられるようになった (Brassard, Germain, & Hart, 1987; Somer & Braunstein, 1999)。1983年にはアメリカで「子どもの心理的虐待に関する国際会議」(International Conference on Psychological Abuse of the Child) が開催され、3冊の雑誌で心理的虐待が特集された (*American Psychologist*, 42(2), 1987; *Development and Psychopathology*, 3(1), 1991; *School Psychology Review*, 16(2), 1987)。心理的虐待は、他のタイプの虐待よりもより深刻な影響を子どもに与えると考えられるようになり (Brassard et al., 1987; Garbarino, Guttman, & Seeley, 1986; McGee & Wolfe, 1991 など)、心理的虐待は児童虐待のコアであると考えられる研究者もでてきた (Garbarino et al., 1986; Garrison, 1987; Hart, Binggeli, & Brassard, 1998 など)。このように、心理的虐待の問題の大きさが認識されるようになったにもかかわらず、専門家は混乱し (Iwaniec, 1995)、心理的虐待に対する介入もあまりなされてこなかった (Creighton, 1992; Glaser, 2002) という現実がある。こうした問題の原因のひとつとして、専門家間で一致した心理的虐待の定義がないことが指摘されている (Iwaniec, 1995; Moran, Bifulco, Ball, Jacobs, & Benaim, 2002)。

日本においては、法律的には2000年に成立した「児童虐待の防止等に関する法律」(児童虐待防止法) の定義に心理的虐待に該当する部分があり、2004年の改正で心理的虐待に該当する定義は具体的でわかりやすく変更された。また、配偶者に対する暴力ではあるが、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(DV防止法) の2004年の改正で配偶者暴力の定義のなかに精神的暴力が加えられた。こうした状況を見ると、日本においても非身体的暴力の影響の重大性が認められてきたようである。しかし、心理的虐待に関する論文は、概説 (本間, 2000; 松原, 2003など)、判例の紹介 (許, 2003; 吉田, 2001など)、事例研究 (浅野, 1999; 杉原, 2000など) を除けば、大学生に対する調査 (坂元, 2005) が1編あるのみである。また、心理的虐待に焦点を絞った本は、翻訳が1冊出版されているにすぎず、日本における心理的虐待への関心は、全体的に見れば1980年代の欧米の状況にまでも到達していないといってもいいだろう。

欧米においても、心理的虐待の定義はいまだに専門家間で意見の一致がみられていないものの、1980年代以降、心理的虐待はさまざまに定義され、議論が重ねられているため、定義における視点の相違や争点はかなり明確になってきている。本研究は、欧米の文献で得られる心理的虐待の定義における考え方の相違を整理して、心理的虐待に関する適切な定義について検討することを目的とする。日本においても心理的虐待によりやく目を向けられるようになった現在の時点で、欧米で専門家を混乱させる一因となった定義の問題を整理しておくことは、意味のあることだと考えるからである。

## II. 用語の問題

日本では、本研究でとりあげる虐待のタイプを表す場合には「心理的虐待」を使用するのが一般

的であるが、日本における「心理的虐待」が表したり含んだりしている英語としては、psychological abuse（心理的虐待）、emotional abuse（情緒的虐待）、psychological neglect（心理的ネグレクト）、emotional neglect（情緒的ネグレクト）、psychological maltreatment（心理的マルトリートメント）、emotional maltreatment（情緒的マルトリートメント）等がある。このような用語にはどのような相違があるかについて、まず検討しておきたい。

## 1. 「情緒的」と「心理的」の相違

アメリカでは、1983年の「子どもの心理的虐待に関する国際会議」で心理的マルトリートメントの定義が提案されて以来、心理的マルトリートメントという用語が使用されることが多くなっている（Binggeli, Hart, & Brassard, 2001）が、心理的虐待と情緒的虐待は区別しないで使用されている場合も多い（Navarre, 1987）。Binggeli et al.(2001)は、心理的マルトリートメントが多いものの情緒的虐待も使用されている理由として、こうした問題を扱う唯一の専門雑誌（*Journal of Emotional Abuse: Interventions, Research & Theories of Psychological Maltreatment, Trauma & Non-physical Aggression*）が情緒的虐待と心理的マルトリートメントの両方を使用していることをあげている。イギリスにおいても心理的虐待と情緒的虐待は区別されていない（O'Hagan, 1995）が、児童保護登録を行う場合には情緒的虐待が使用され、研究者の多くも情緒的虐待を使用している（Edmundson & Collier, 1993）。

こうしたなかで、O'Hagan(1995)は、情緒的虐待と心理的虐待はまったく別々に経験することであるとはいわないが、同じものではないと主張している。そして、情緒的虐待を「子どもの感情や感情の表現に対する継続して繰り返される不適切な情緒的反応」、心理的虐待を「非常に重要な子どもの精神機能と精神過程を生み出し発達させる可能性にダメージを与えたり、大きく減少させたりするような、継続して繰り返される不適切な行動」と定義し、情緒的虐待は情緒的側面にマイナスの影響を及ぼし、心理的虐待は認知的側面にマイナスの影響を及ぼすとしている。この主張に対しては、情緒と認知は互いに独立しているわけではないので、情緒的虐待と心理的虐待を区別することは有益ではないという批判があり（Glaser, 2002）、O'Hagan(1995)の主張を支持する論文やこの主張に基づく研究は見当たらない。

このように、「情緒的」が適切か「心理的」が適切か、情緒的虐待と心理的虐待の差は何かに関しては、十分な議論がなされているわけではなく、完全に意見が一致しているわけでもないが、Binggeli et al.(2001)がいうように、情緒面と認知面を含むより広い概念を表している「心理的」のほうがより広い支持を得られそうである。

## 2. 「虐待」と「ネグレクト」と「マルトリートメント」

Glaser(2002)は、論文のタイトルを“Emotional abuse and neglect (psychological maltreatment):

A conceptual framework”と表現している。また、McGee & Wolfe(1991)は心理的マルトリートメントを使用し、その理由として、心理的マルトリートメントが心理的虐待と心理的ネグレクトの両方の養育行動を含む用語であるからだと述べている。また、虐待を使用している論文では、Glaser(2002)のタイトルにみられるように、心理的虐待とネグレクト（または情緒的虐待とネグレクト）と表現していることも多い。したがって、一般的には、心理的虐待と心理的ネグレクトを合わせて心理的マルトリートメント（または情緒的虐待と情緒的ネグレクトを合わせて情緒的マルトリートメント）と呼んでいるということができよう。

では、心理的虐待（または情緒的虐待）と心理的ネグレクト（または情緒的ネグレクト）の相違は何か。虐待は親が子どもに対して作為的に行うマイナスの行為、ネグレクトは、親の不作為の行為を指している場合が多い（McGee & Wolfe, 1991）。この考え方に従えば、心理的虐待（または情緒的虐待）は、たとえば人前で子どもに恥をかかせる行為、心理的ネグレクト（または情緒的ネグレクト）は、たとえば子どもへの愛情を表現しない行為が相当すると考えられる。

### 3. 日本の場合

児童虐待防止法では、児童虐待を、保護者（親権を行う者、未成年後見人その他の者で、児童を現に監護するもの）がその監護する児童（18歳に満たない者）に対して行う行為であると定義し、身体的虐待、性的虐待、ネグレクト、心理的虐待に該当する4つのタイプを示している。したがって、日本の法律では児童虐待のなかにネグレクトを含めていることになる。また、法律ではマルトリートメントあるいはマルトリートメントに相当することばは使用されておらず、児童虐待に関する論文等でもマルトリートメントはほとんど使用されていない。

児童虐待防止法で定義している心理的虐待に相当する虐待のタイプに言及する場合は、日本においては一般的に心理的虐待が使用されており、情緒的虐待が使用されることはほとんどない。また、児童虐待防止法に基づいて児童相談所が行う具体的な対応を記した厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課（2005）では、ネグレクトの具体例に心理的ネグレクトが含まれており、児童虐待防止法における心理的虐待には心理的ネグレクトは含まれていないと考えられる。

しかし、日本においては、心理的虐待とネグレクトや心理的マルトリートメントという用語はあまりなじみがない。また、欧米の文献では、心理的虐待とネグレクト（または情緒的虐待とネグレクト）や心理的マルトリートメント（または情緒的マルトリートメント）が多いものの、心理的虐待（または情緒的虐待）に心理的ネグレクト（または情緒的ネグレクト）が含まれていないとは限らない。このような状況を考えると、それぞれの文献の著者が使用している用語をそのまま使用することが、ここでとりあげる問題の検討にプラスに働くとは思われない。したがって、本研究では、基本的には、著者が心理的虐待（あるいは情緒的虐待）を使用している場合だけでなく、心理的マルトリートメント（あるいは情緒的マルトリートメント）や心理的虐待とネグレクト（あるいは情

緒的虐待とネグレクト)を使用している場合にも心理的虐待を使用することとする。

### Ⅲ. 心理的虐待の定義に関する検討

30年以上にわたってさまざまになされきた心理的虐待の定義を概観すると、これらの定義には、いくつかの点において意見の相違や立場の違いがあることがわかる。ここでは、それらのうち、①親の行動のみを問題にするのか、子どもに影響が現れていることも必要か、②親の行動が心理的な場合か、子どもへの影響が心理的な場合か、③親の意図の有無は心理的虐待かどうかに関係するか、④心理的虐待とへたな養育の相違は何か、の4つの観点から心理的虐待の定義について検討する。

#### 1. 親の行動のみを問題にするのか、子どもに影響が現れていることも必要か

これは、子どもに影響が現れているかどうかには関係なく子どもにマイナスの影響を及ぼす可能性が高い親の行動を問題にするのか、子どもに影響が生じた場合の親の行動を問題にするのか、ということである。

1980年にアメリカの国立児童虐待センター (National Center on Child Abuse and Neglect) が州の基準を作成するための指針として推薦した精神的外傷に関する定義は、子どもへの影響を立証することを要求している (1974年に PL-247として可決された連邦法「児童虐待防止及び処遇法」(Child Abuse Prevention and Treatment Act) では心理的虐待に関しては精神的外傷 (mental injury) と表現しており、心理的虐待に言及する場合、精神的外傷が使われることもある)。

「精神的外傷」とは、子どもの知的あるいは心理的能力の損傷であり、子どもが所属する文化を十分考慮したうえで、正常と考えられる範囲内の行動をする子どもの能力に、観察できる重大な障害があることが立証されなければならない。(Binggeli et al.(2001) より引用)

アメリカの多くの州も心理的虐待の立証に子どもに害を及ぼしているという証拠を要求しており (Glaser, 2002; Griffith & Zigler, 2002)、イギリスでも、強制的な介入には重大な害があるという証拠を必要としている (Moran et al., 2002)。また、法的介入にかかわっている者は、心理的虐待であるとするには子どもへの害が明らかでなければならないと考えている場合が多い (McGee & Wolfe, 1991)。これは、一般的に、法律は特定可能な傷に至る行為を必要としているからである (Miller-Perrin & Perrin, 1999)。

一方、APSAC(1995) は、親の行動のみを問題としている。

「心理的虐待」とは、価値がないとか、欠点があるとか、愛されていないとか、不必要な人間であるとか、危険にさらされているとか、他人の要求を満たす場合にのみ価値があるということを子どもに伝えるような養育者の行動が繰り返されたり、そのような極端な出来事があったりすることである。

## 心理的虐待の定義に関する検討

McGee & Wolfe(1991)も、子どもに心理的ダメージを与える可能性のあるコミュニケーションを心理的虐待とし、子どもに及ぼした心理的影響ではなく、親の行動の特徴に基づいて定義することを提案している。

心理的虐待は身体的虐待のように明確な痕跡が残るわけではない。前述のように、心理的虐待は、他のタイプの虐待と比べて、もっとも大きなマイナスの影響を及ぼすと考えられており、その影響ももっとも長く続くことが示唆されている (Binggeli et al., 2001)。それにもかかわらず、影響が現れなければ虐待が行われているとすることができなければ、心理的虐待の判断は、子どもへの影響が非常に大きくなるまで待たなければならない可能性が高く、虐待を効果的に予防をしたり被害を最低限に抑えたりすることはむずかしい。したがって、子どもに影響が現れているかどうかとは関係なく、親の行動のみで心理的虐待を定義するほうが適切であると考えられる。Navarre(1987)も、心理的虐待は害を受ける可能性があれば介入できるとし、その根拠として、だれかを傷つけるまで酔っぱらい運転に介入できないことはないのと同じであるとしている。

しかし、酔っぱらい運転の危険性が立証されているのと同じように、親の行動のみを問題とするならば、そうした行動による子どもへのマイナスの影響が立証されている必要がある。心理的虐待が子どもに及ぼすマイナスの影響に関しては、研究が積み重ねられてきており (Black, Smith Slep, & Heyman, 2001; Crittenden, Claussen, & Sugarman, 1994; Glaser, 2002; Ney, Fung, & Wickett, 1994 など)、長期的な影響について立証する研究もでてきている (Mullen, Martin, Anderson, Romans, & Herbison, 1996; Pitzner, McGarry-Long, & Drummond, 2000; Varia & Abidin, 1999 など)。このような研究が進み、親の行動と子どもへの影響の関係がさらに明確になれば、立場の違いを越えて親の行動のみによって心理的虐待を定義することに合意が得られ、子どもへのマイナスの影響がそれほど大きくならないうちに何らかの介入をすることが可能になるだろう。

## 2. 親の行動が心理的な場合か、子どもへの影響が心理的な場合か

これは、「心理的」というのは、親の身体的接触がない場合をいうのか、子どもが心理的側面へのダメージを受けた場合をいうのかという問題である。

McGee & Wolfe(1991)は、何が心理的かに関する視点を説明するために、親の行動と子どもへの影響の組み合わせの表を提案している (表1参照)。

表1 虐待に関する親の行動と子どもへの影響の関係

		親の行動	
		身体的	非身体的／心理的
子どもへの影響	身体的	A	C
	非身体的／心理的	B	D

McGee & Wolfe (1991) を修正



McGee & Wolfe(1991)によれば、Aは一般的な身体的虐待の定義であり、Dは純粋な心理的虐待の定義であるが、B、Cも心理的虐待の定義に含む考え方があり。そして、Cの例として、一貫して幼い子どもを無視するような親の非身体的行動が子どもに非器質性成長障害のような身体的影響を及ぼす場合、Bの例として、繰り返し身体的虐待や性的虐待を受けた子どもが極端にびくびくするようになるような場合をあげている。

心理的虐待の範囲を、表1をもとに、親の行動と子どもへの影響の関係でとらえると、①親の行動と子どもへの影響の両方が非身体的であるDのみを対象としている、②親の行動が非身体的であるCとDを含んでいる、③子どもへの影響が非身体的であるBとDを含んでいる、④親の行動が非身体的である場合と子どもへの影響が非身体的である場合のB、C、Dを含んでいる、の4タイプが考えられる。しかし、Bを含んでいる定義はCとDも含んでおり、③のタイプの定義は見当たらない。以下に①②④の定義を紹介する。

①の定義には、American Humane Association(1981)があり、「子どもの情緒的ウェルビーイングに影響を与える、子どもに対する、積極的で意図的な、叱る、馬鹿にするなどの虐待的行動」と定義している。McGee & Wolfe(1991)も①の立場をとっている。

②の定義は、Iwaniec(1995)の以下の定義がある。

心理的虐待とは、親の敵意ある、あるいは冷淡な行為によって、子どもの自尊心が傷つけられ、達成感が奪われ、人との一体感が薄れ、健康的で活気にあふれた発達をはばまれ、子どものウェルビーイングが奪われることである。

④の定義には、1983年にアメリカで開催された「子どもの心理的虐待に関する国際会議」で提案された定義がある。

子どもの心理的虐待は、地域社会の基準と専門的知識の両方から考えて、心理的ダメージを与えていると判断される不作為と作為の行為から成る。…このような行為は、すぐにまたは最終的に子どもの行動的・認知的・感情的・身体的機能にダメージを与える。心理的虐待の例には、拒否する、恐怖感を与える、孤立させる、利己的に利用する、誤った社会化をするなどがある。(Binggeli et al.(2001)より引用)

前述したような心理的虐待は児童虐待のコアであるとする考え方の場合の心理的虐待の定義はこの④に当たる。

心理的虐待は単独で存在するだけでなく、身体的虐待や性的虐待といっしょに行われているケースも多い(Briere & Runtz, 1990; Claussen & Crittenden, 1991; Vissing, Straus, Gelles, & Harrop, 1991; Jellen, McCarroll, & Thayer, 2001; Ney et al., 1994)。そして、心理的虐待と組み合わせると、単独の場合よりもずっと大きな影響を及ぼすことも示唆されている(Ney et al., 1994; Rorty, Yager, & Rossotto, 1994)。このような研究結果を考えると、他のタイプの虐待との関係も含めて、親の行動と子どもへの心理的虐待の影響の関係を明確にしていくためには、心理的虐待の範囲はできるだけ



要因が少ないものにする、つまり、親の行動、子どもへの影響ともに非身体的な場合に限った表1のDを心理的虐待とすることを提案したい。

心理的虐待はすべての虐待のコアであるとする Binggeli et al.(2001) は、心理的虐待は、他の虐待と作用し合い、他の虐待が及ぼす影響を強める働きをしており、心理的虐待を考慮しなければ、児童虐待を十分に理解し、有効な介入を考え出すことが不可能になると述べている。また、Garbarino & Vondra(1987) は、激怒した親に負わされた外傷と運動会などでの偶発的な事故で負った外傷とは子どもにとって大きな差があることを例にあげ、虐待における対応の努力の中心を心理的虐待に置くべきだとしている。すべての虐待において心理的問題を強調することは重要である。しかし、B、C、Dすべてを心理的虐待とし、どの虐待にも心理的虐待が含まれると考えるよりも、すべてのタイプの虐待が心理的にマイナスの影響を及ぼすという視点の重要性を強調し、心理的虐待はDに限定して、心理的虐待が子どもに及ぼす影響、影響に差を生じさせる子どもの側の要因や環境の要因、他のタイプの虐待に及ぼす影響の程度などを明確にしていくほうが、実りは大きいと考えられる。また、他のタイプの虐待よりもずっとしつけとの境がつけにくく、見た目の傷が残らない心理的虐待の問題の重要性を一般市民に認識してもらうためにも、心理的虐待を純粋な形でとりあげるほうが理解しやすく、また意味があると考えられる。

### 3. 親の意図の有無は心理的虐待かどうかに関係するか

心理的虐待において親の意図の有無が問題になるのは、身体的虐待や性的虐待をしている親は、ふつうは自分の虐待行為に気づいているが、心理的虐待は意図的な意識外で生じる場合が多い(Binggeli et al., 2001) からである。

定義で親の意図に言及しているのは Moran et al.(2002) であり、意図の有無は心理的虐待がどうかに関係がないとしている。O'Hagan(1993) も、虐待者の意図とは関係なく心理的虐待かどうかの判断をすべきだとし、理由として、虐待者が意図を否定したり、虐待という意識なかったりした場合、虐待ではないということになること、身体的虐待や性的虐待は意図は問題にはならないことをあげている。また、McGee & Wolfe(1991) も、虐待かどうかを判断する場合、道徳的・法的には親の意図は非常に重要であるが、研究の場合には、行動についてのみ定義すべきだと主張している。

一方、Hamarman & Bernet(2000) は、心理的虐待の重症度の決定を親の意図と子どもに害を及ぼす可能性の程度の組み合わせから決定することを提案している。親の行動に害を与えようという親の意図があり子どもに害が生じる可能性が高い場合は重度、親の意図も害が生じる高い可能性もない場合は軽度、どちらかが一方のみの場合は中度の心理的虐待と考えている。McGee & Wolfe(1991) も、親に虐待の意図があることに子どもが気づいていると、子どもへの影響は非常に大きくなると考えているが、Hart & Brassard(1991) は、臨床的には重要であるが、重症度とはそれほど関連がないとしている。

このように、心理的虐待における親の意図の有無は、重症度とのかかわりも含めて、臨床的には考慮すべき重要な要因であると考えられる。しかし、心理的虐待の定義においては親の行動のみを問題とし、客観的な判断がむずかしい親の意図の有無は心理的虐待かどうかには関係がないと考えたほうがいだろう。

#### 4. 心理的虐待とへたな養育の相違は何か

どんな親でも、子どもを傷つけるようなことを言ったり、行ったりすることはある。しかし、すべての親が心理的虐待をしていると考えられているわけではない。それでは、どのような場合に心理的虐待と判断されるのか。

Brassard, Hart, & Hardy(1993) は、心理的虐待を「通常、単一のエピソードというよりはむしろ行動様式になっている」と述べている。これ以外にも、常習性や繰り返しに言及している研究者は多い (Glaser & Prior, 1997; O'Hagan, 1995; Thompson & Kaplan, 1996 など)。一方、APSAC(1995), Moran et al.(2002) の定義は、常習性 (「繰り返し」) と激しさ (「極端な出来事」) に言及しており、一度のみの場合も含めている。

では、どの程度の常習性、激しさであれば心理的虐待とされるのか。具体的ではないが、Binggeli et al.(2001) は、いくつかの研究に基づいて、親の養育行動を直線上に位置づけた場合、心理的虐待は直線上のマイナス方向のいちばん端に位置し、強制的な介入が必要であるが、マイナス方向の端から中央に寄った中度や軽度のマイナスの養育行動と考えられる場合には、「不適切な」とか「不十分な」とか「間違った方向の」子育てと呼んで、任意の予防的・教育的介入をする対象となるとしている。また、一度だけの行動で非常に子どもの心を傷つける心理的虐待もあるとも述べている。したがって、Binggeli et al.(2001) は、常習性と激しさの程度が大きければ心理的虐待であるが、激しさが極端であれば常習性がなくても心理的虐待になる場合もあると考えているようである。

以上述べた考え方で、一度だけで子どもに深刻な影響を及ぼす可能性が大きい性的虐待の場合には、常習的かどうかは問題にはならないことを考え合わせると、心理的虐待は、基本的には常習的に行われている場合に限られるが、子どもに重大な影響を及ぼすような極端な出来事であれば、一度のみであっても心理的虐待と考えるべきであろう。

### Ⅳ. 心理的虐待のサブカテゴリーに関する検討

Ⅲで検討した心理的虐待の概念の定義が試みられる一方、心理的虐待にあたる親の行動をカテゴリー化しようとした研究者もいる。これらのカテゴリーを検討し、実際にどのような行動を心理的虐待とみなすべきかを考えておきたい。

Garbarino et al.(1986) は、「拒否する」「孤立させる」「威嚇する」「無視する」「墮落させる」の

5つのサブカテゴリー、Hart, Germain & Brassard(1987)は、「拒否する」「侮辱する」「威嚇する」「孤立させる」「墮落させる」「搾取する」「情緒的反応をしない」の7つのサブカテゴリーをあげている。またAPSAC(1995)は、「拒絶する」「威嚇する」「孤立させる」「搾取する／墮落させる」「情緒的反応をしない」「精神的健康・医療・教育に関するネグレクト」の6つのサブカテゴリーをあげている。Binggeli et al.(2001)は、APSAC(1995)のサブカテゴリーについて、6番目は5番目までの主要なサブカテゴリーから派生したもので、心理的虐待の範囲をわかりやすくするために付け加えたものであるとしており、APSAC(1995)のサブカテゴリーについては、ここでは5番目までをとりあげる。

Binggeli et al.(2001)は、また、43の心理的虐待に関する研究結果をまとめ、APSAC(1995)の5つのサブカテゴリーはそれぞれが子どもにマイナスの心理的影響を及ぼしており、これらが心理的虐待のサブカテゴリーとして妥当であることを示している。そこで、APSAC(1995)を中心にそれぞれのサブカテゴリーを検討すると、APSAC(1995)のサブカテゴリーにはないGarbarino et al.(1986)の「拒否する」とHart et al.(1987)の「侮辱する」はAPSAC(1995)の「拒絶する」に含まれ、Garbarino et al.(1986)の「無視する」はAPSAC(1995)の「情緒的反応をしない」に含まれると考えられる(表2参照)。したがって、これまでに提案されている主なサブカテゴリーは、APSAC(1995)に集約されると考えていいだろう。

しかし、APSAC(1995)のサブカテゴリーのうち、「墮落させる」は親の行動が子どもに与える影響によって表現されている。Ⅲの1で検討したように、親の行動のみを問題にする立場をとるならば、この表現は適切ではない。たとえば、「搾取する／墮落させる」行為の説明をもとにして、表現を「搾取する／墮落させる」から「不適切な行動をそそのかす」にする、といった変更が考えられる(表2参照)。また、APSAC(1995)は、親の行動がひとつのサブカテゴリーにぴったり当てはまらない場合もあるとしており、今後、さらに検討が必要である。さらに、サブカテゴリーの「威嚇する」の具体的な親の行動に子どもに対する身体的虐待も含まれており(表2参照)、心理的虐待とする親の行動を非身体的な行動に限定するならば、その部分は対象にはならないことになる。

## V. 結 論

心理的虐待はすべてのタイプの児童虐待のコアであるとする考え方から、子どもに心理的なマイナスの影響を与える親の非身体的行動のみを心理的虐待とする考え方まで、心理的虐待の定義の範囲には大きな差がある。そうしたさまざまな範囲の定義を検討した結果、心理的虐待は、①予防をしたり被害を最低限に抑えたりするためには、子どもにマイナスの影響が現れているかどうかには関係なく、親の行動のみを対象とする、②親の行動と子どもへの影響の関係を明確にしておくためには、親の行動が非身体的で子どもへの影響も非身体的な場合のみとする、③客観的な判断がむず

かしいため、親の意図の有無は問題としない、④基本的には常習的に行われている場合に限られるが、極端であれば一度のみの場合も含む、という4点を提案したい。考え方の異同はさておき、ここであげた点すべてについて言及している定義はほとんどない。定義をする場合には、少なくともこれらに関しては考え方を明確にする必要があるだろう。

そして、提案した心理的虐待の範囲、子どもにマイナスの影響を及ぼすことが明らかになっている親の行動であることを考慮に入れると、心理的虐待のサブカテゴリーとして、現在のところ、「拒絶する」「威嚇する」「孤立させる」「不適切な行動をそそのかす」「情緒的反応をしない」の5つをあげることができる。

表2 APSACによる心理的虐待の主要な5つのサブカテゴリー

<p>「拒絶する（敵意のある拒否をする／侮辱する）」とは、ことばによるかどうかにはかかわらず、子どもを拒否したり侮辱したりする養育者の行為を指す。以下のようなものが拒絶する行為にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・けなしたり、侮辱したりといったように、あからさまな敵意や拒否を身体的暴力によらないで示す</li> <li>・愛情や悲嘆や悲しみなどの自然な気持ちを示している子どもを辱めたり、嘲笑したりする</li> <li>・いつも一人の子どもだけを選んで、けなして罰を与えたり、家事のほとんどをやらせたり、ほとんどほめなかったりする</li> <li>・みんなの前で恥をかかせる</li> </ul>
<p>「威嚇する」とは、けがを負わせるとか、殺すとか、置き去りにするとか、子どもや子どもの大切な人や物を危険な目に遭わせると言って子どもを脅したり、そうしたことをしようとしたりする養育者の行為を指す。以下のようなものが威嚇する行為にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを予測できない状況や混乱した状況に置く</li> <li>・子どもを明らかに危険な状況に置く</li> <li>・厳しい非現実的な期待を子どもに課して、期待にそむけば殺すとか、傷つけるとか、危害を加えると言って脅す</li> <li>・子どもを脅したり、子どもに暴力をふるったりする</li> <li>・子どもの大切な人や物を脅したり、それらに暴力をふるったりする</li> </ul>
<p>「孤立させる」とは、友だちやおとなとかかわったりコミュニケーションをしたりという子どものニーズを満足させる機会を、家庭内でも家庭外でもまったく与えない養育者の行為を指す。以下のようなものが孤立させる行為にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを監禁したり、子どもの行動の自由を不当に制限したりする</li> <li>・地域における友だちやおとなの社会的なかかわりを不当に制限する</li> </ul>
<p>「搾取する／墮落させる」とは、子どもが不適切な行動（自己破壊的、反社会的、犯罪的、逸脱的行動その他の不適応行動）をとるようにそそのかす養育者の行為を指す。以下のようなものが搾取する／墮落させる行為にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・反社会的行動（たとえば、売春、ポルノ出演、犯罪の手引き、薬物乱用、他者への暴力やそそのかし）をしてみせたり、許容したり、そそのかしたりする</li> <li>・発達の不適切な行動（たとえば、親の代わりをさせる、赤ちゃん扱いをする、親の実現できなかった夢を子どもでかなえようとする）をしてみせたり、許容したり、そそのかしたりする</li> </ul>

- ・ 極端な過干渉や押しつけや支配（たとえば、子どもが自分の考えや気持ちを表したり望みを実現しようとしたりするための機会やサポートをほとんど与えないかまったく与えない、子どもの生活を細かく管理する）によって、発達の適切な自律性をあきらめるよう仕向けたり、強要したりする
- ・ 認知発達を制限したり、妨げたりする

「情緒的反応をしない（無視する）」とは、かかわろうとする子どもの意図やニーズを無視し（子どもへの思いやりやいたわりや愛情を表現することができず）、子どもとのかかわりで感情をまったく示さないような養育者の行為を指す。以下のようなものが情緒的反応をしない行為にあたる。

- ・ モティベーション能力の低さや欠如によって、超然としていて無関心である。
- ・ どうしても必要な場合にしかかかわらない
- ・ 子どもへの思いやりやいたわりや愛情を表現することができない

APSAC(1995)を修正

## 文 献

- American Humane Association, *Annual Report, 1980: National Analysis of Official Child Neglect and Abuse Reporting*. Author, 1981
- American Professional Society on the Abuse of Children, *Guidelines for the Psychosocial Evaluation of Suspected Psychological Maltreatment in Children and Adolescents*. Author, 1995
- 浅野良雄「心理的虐待の被害経験者に対する援助－フラッシュバックへの対応の実際－」『ヘルスサイエンス研究』第3巻 1999 pp.38-42
- Binggeli, N.J., Hart, S.N., & Brassard, M.R., *Psychological Maltreatment of Children*. Sage Publications, 2001
- Black, D.A., Smith Slep, A., & Heyman, R.E., “Risk factors for child psychological abuse” *Aggression and Violent Behavior*, 6, 2001, pp.189-201
- Brassard, M.R., Germain, R., & Hart, S.N., *Psychological Maltreatment of Children and Youth*. Pergamon Press, 1987
- Brassard, M.R., Hart, S.N., & Hardy, D., “The psychological maltreatment rating scales” *Child Abuse & Neglect*, 17, 1993, pp.715-729
- Briere, J. & Runtz, M., “Differential adults symptomology associated with three types of child abuse histories” *Child Abuse & Neglect*, 14, 1990, pp.357-364
- Claussen, A. & Crittenden, P., “Physical and psychological maltreatment: Relations among types of maltreatment” *Child Abuse & Neglect*, 15, 1991, pp.5-18
- Creighton, S.J., *Child Abuse Trends in England and Wales 1988-1990*. National Society for the Prevention of Cruelty to Children, 1992
- Crittenden, P.M., Claussen, A.H., & Sugarman, D.B., “Physical and psychological maltreatment in middle childhood and adolescence” *Development and Psychopathology*, 6, 1994, pp.145-164
- Edmundson, S.E. & Collier, P., “Child protection and emotional abuse: Definition, identification and usefulness within an educational setting” *Educational Psychology in Practice*, 8, 1993, pp.198-206
- Garbarino, J., Guttman, E., & Seeley, J., *The Psychologically Battered Child*. Jossey-Bass, 1986
- Garbarino, J. & Vondra, J., “Psychological maltreatment: Issues and perspectives”, In M.R.Brassard, R.Germain, & S.N.Hart (Eds.), *Psychological Maltreatment of Children and Youth*. Pergamon Press, 1987, pp.25-44
- Garrison, E.G., “Psychological maltreatment of children: An emerging focus for inquiry and concern” *Ameri-*



- can Psychologist*, 42, 1987, pp.157-159
- Glaser, D., "Emotional abuse and neglect (psychological maltreatment): A conceptual framework" *Child Abuse & Neglect*, 26, 2002, pp.697-14
- Glaser, D. & Prior, V., "Is the term child protection applicable to emotional abuse?" *Child Abuse Review*, 6, 1997, pp.315-329
- Griffith, N.H. & Zigler, J.S., *The Unkindest Cut: The Emotional Maltreatment of Children*. Red Clay & Vinegar, 2002
- Hamarman, S. & Bernet, W., "Evaluating and reporting emotional abuse in children: Parent-based, action-based focus aids in clinical decision-making" *Journal of American Academy of Child Adolescent Psychiatry*, 39, 2000, pp.928-930
- Hart, S.N., Binggeli, N., & Brassard, M., "Evidence of the effects of psychological maltreatment" *Journal of Emotional Abuse*, 1, 1998, pp.27-58
- Hart, S.N. & Brassard, M.R., "Psychological maltreatment: Progress achieved" *Development and Psychopathology*, 3, 1991, pp.61-70
- Hart, S.N., Germain, R.B., & Brassard, M.R., "The challenge: To better understand and combat psychological maltreatment of children and youth" In S.N.Hart, R.B.Germain, & M.R.Brassard (Eds.), *Psychological Maltreatment of Children and Youth*. Pergamon, 1987, pp.3-27
- 本間博彰「心理的虐待 (Psychological Abuse) について - 他の形態の児童虐待との関連および最近の動向 -」『児童青年精神医学とその近接領域』第41巻 2000 pp.575-580
- Iwaniec, D., *The Emotionally Abused and Neglected Child: Identification, Assessment and Intervention*. John Wiley & Sons, 1995 (桐野由美子監・麻生九美訳『情緒的虐待／ネグレクトを受けた子ども - 発見・アセスメント・介入 -』明石書店 2003)
- Jellen, L.K., McCarroll, J.E., & Thayer, L.E., "Child emotional maltreatment: A 2-year study of US army cases" *Child Abuse & Neglect*, 25, 2001, pp.623-639
- Kempe, C.H., Silverman, F.N., Steele, B.F., Droegemueller, W., Silver, H.K., "The battered child syndrome" *Journal of the American Medical Association*, 17, 1962, pp.17-24
- 厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課『子ども虐待対応の手引き (平成17年3月25日改定版)』2005
- 許末恵「児童自立支援施設への入所承認 (父からの心理的虐待)」『民商法雑誌』第129巻 2003 pp.128-133
- 松原康雄「児童虐待における心理的虐待の位置」『法務総合研究所研究部報告』第22号 2003 pp.133-139
- McGee, R. & Wolfe, D.A., "Psychological maltreatment: Towards an operational definition" *Development and Psychopathology*, 3, 1991, pp.3-18
- Miller-Perrin, C. & Perrin, R., *Child Maltreatment: An Introduction*. Sage Publications, 1999 (伊藤友里訳『子ども虐待問題の理論と研究』明石書店 2003)
- Moran, P.M., Bifulco, A., Ball, C., Jacobs, C., & Benaim, K., "Exploring psychological abuse in childhood: I. Developing new interview scale" *Bulletin of the Menninger Clinic*, 66, 2002, pp.213-240
- Mullen, P.E., Martin, J.L., Anderson, J.C., Romans, S.E., & Herbison, G.P. "The long-term impact of the physical, emotional, and sexual abuse of children: A community study" *Child Abuse & Neglect*, 20, 1996, pp.7-21
- Navarre, E.L., "Psychological maltreatment: The core component of child abuse" In M.R.Brassard, R.Germain, & S.N.Hart, *Psychological Maltreatment of Children and Youth*. Pergamon Press, 1987, pp.45-56
- Ney, P., Fung, T., & Wickett, A., "The worst combination of child abuse and neglect" *Child Abuse & Neglect*, 18, 1994, pp.705-714
- O'Hagan, K., *Emotional and Psychological Abuse of Children*. University of Toronto Press, 1993.
- O'Hagan, K., "Emotional and psychological abuse: Problems of definition" *Child Abuse & Neglect*, 19, 1995,



## 心理的虐待の定義に関する検討

pp.449-461

Pitzner, J.K., McGarry-Long, J., Drummond, P.D., “A history of abuse and negative life events in patients with a sexually transmitted disease and in a community sample” *Child Abuse & Neglect*, 24, 2000, pp.715-731

Rorty, M., Yager, J., & Rossotto, E., “Childhood sexual, physical, and psychological abuse in bulimia nervosa” *American Journal of Psychiatry*, 151, 1994, pp.1122-1126

坂元由布子「青年期の自己像と問題行動、および『家庭内での心理的虐待』に関する実態調査」『アディクションと家族』第22巻 2005 pp.67-74

Somer, E. & Braunstein, A., “Are children exposed to interparental violence being psychologically maltreated?” *Aggression and Violent Behavior*, 4, 1999, pp.449-456

杉原俊二「心理的虐待をおこなった家族への援助－児童虐待のカウンセリング（1）－」『瀬戸内短期大学紀要』第31号 2000 pp.19-27

Thompson, A.E. & Kaplan, C.A., “Childhood emotional abuse” *British Journal of Psychiatry*, 168, 1996, pp.143-148

Varia, R. & Abidin, R., “The minimaizing style: Perceptions of psychological abuse and quality of past and current relationships” *Child Abuse & Neglect*, 23, 1999, pp.1041-1055

Vissing, Y.M., Straus, M.A., Gelles, R.J., & Harrop, J.W., “Verbal aggression by parents and psychological problems of children” *Child Abuse & Neglect*, 15, 1991, pp.223-238

吉田恒雄「心理的虐待等による児童福祉施設入所措置の承認」『民商法雑誌』第125巻 2001 pp.416-422